

# 第49回 大月市生涯学習推進大会 報告書

日 時 平成23年3月6日（日）於  
会 場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール



## 【 ふるさと大月の未来を創造しよう 】



大月市教育委員会

## 第49回大月市生涯学習推進大会 実施要項

### 1. 大会テーマ 【ふるさと大月の未来を創造しよう】

市民1人ひとりが、農業や観光の体験や交流等による人づくり、仲間づくり、地域づくりに係わることにより、自分がどのような生涯学習ができるか考え、一歩踏み出して行動し、皆で学び合い、大月の明るい未来を創り上げて行こう。

### 2. 大会主旨

身近で資源でもある農業や観光に関心を持ち、実践して行くことが「学び」を見だし(生涯学習を始め)、その成果(学んだ事や実践)を生かす(教育活動や社会活動に生かし周りに広げて行く)ことで、心に充足感や豊かさをもたらし、生きがいや人づくり、仲間づくり、地域づくりへ繋がり、ふるさと大月の明るい未来を創り上げていくこととなっていくことを感じてもらう。また、生涯学習をすることで人生が変わって行くというイメージを持ってもらい、実際に行動を起こすための情報や自分なりの生涯学習を見つけるきっかけを得て、何かを始めてみようという意欲を高めることを今大会の主旨とする。

### 3. 主 催 大月市教育委員会・大月市社会教育委員会・大月市公民館連絡協議会

### 4. 日 時 平成23年3月6日(日)午後1時 開会

### 5. 会 場 大月市中央公民館(市民会館)大ホール

### 6. シンポジウム

農業や観光を通じた生涯学習の実践と成果について発表し、生涯学習の楽しさや素晴らしさを感じてもらおう。また学習に踏み出すためのきっかけや学習に対する意欲を高めるような情報を提供し、相互に交換し合う。

#### ○コーディネーター

- ・大月短期大学 准教授 佐藤 茂幸

#### ○パネリスト

- ・地域づくりグループ 渡邊 勲 氏
- ・食材提供グループ 杉本 成司 氏
- ・観光ボランティア 根岸 光子 氏
- ・NPO法人 おおつきエコビレッジ 山田 政文 氏

### 7. その他

- ・アトラクション 笹子追分人形保存会による三番叟 他
- ・展 示 等 各地区公民館等実施事業写真展 (1階 ギャラリー)
- 中央公民館文化教室生徒作品展 (2階 市民ギャラリー)
- 一駅逸品ブース【産業観光課】 (1階 ホール)

8. 時間設定	受付・開場	12:30～
	アトラクション	13:00～13:20
	開会行事	13:20～13:50
	シンポジウム	14:00～15:55
	閉 会	～16:00

# コーディネーター紹介



さとう しげゆき  
佐藤 茂幸 氏 (大月短期大学 准教授)

- ◇最終学歴 立教大学大学院  
21世紀社会デザイン研究科  
比較組織ネットワーク専攻
- ◇学 位 社会デザイン学修士
- ◇専門分野 経営戦略論、ベンチャー起業論、  
非営利組織論
- ◇担当科目 経営学入門、経営A・B、  
マーケティング論 他
- ◇e-mail: sato@ohtsuki.ac.jp



# パネリスト紹介



わたなべ いさお  
渡邊 勲 氏 (地域づくりグループ)

『大豆に魅せられていい汗をかきました』

私が育った賑岡町浅利地区の子供の頃の生活は、家族も多く養蚕や機織業が主で、ほとんどの家庭で麦や米・穀物・野菜などを栽培し、まさに自給自足に近い状況で食料を賄ってきました。そのため耕作地は山の中腹まで伸びていました。その後、経済や社会構造・生活様式の変化により中腹は林や竹林となり、最近では高齢化・少子化が進み民家のすぐ近くまでもが、休耕や耕作放置の状態となってきました。

そんな折、教員を退職した中村順一郎先生が中学生と荒れ果てた畑で、大豆を作っている光景を目にしました。折しも私がサラリーマンを退職した時期でした。もともと食に関心があり、自分や家族が食べる米や野菜・味噌を作っていましたが、身近に増える耕作放置地の解消に前向きな活動に共感し、大豆栽培に参画し2年が経ちました。



# すぎもと せいじ 杉本 成司 氏 (学校給食食材提供グループ)

『学校給食から感じた食育』

地産地消として学校給食センターへ食材を出荷しているグループです。給食センターに食材を出荷することによって「食育」の重要性を強く感じています。そこで気付いた問題点とその解決策について、未熟ながら実践してきた経験を発表させていただきます。なお、子供たちと食育に関連していろいろと接し、梁川小学校6年生からアンケートを取りました。その結果、全員が「地域が好き」と回答。理由として「自然がいっぱいで、地域で採れた野菜が食べられるから」と言う結果を見たとき、食育の重要性と、地域を知ると言うことは地域を好きになる事であると気付かされました。そこに、明るい大月の未来が期待できた事に、私達の大きな収穫がありました。



# ねぎし みつこ 根岸 光子 氏 (観光ボランティア)

『観光ボランティアに応募して』

私は、南アルプス市から嫁いで大月に住み50年程になります。3人の子供を無事育て、それぞれ家庭を持ち幸せに暮らしています。さて自分がこれからの人生、自分も元気に、また何か役に立つことはないかと考えて、観光ボランティアを始めました。出逢いを一人ひとり大切にして輪を広げて、少しでもこれからの大月市の足場になったらいいなあと思っています。



# やまだ まさふみ 山田 政文 氏 (NPO法人おおつきエコビレッジ)

『エコの里の活動を通して』

生まれも育ちも住居もずっと鳥沢。現在は八王子市役所に勤務のかたわら地域では大月市消防団第7分団に所属するとともに、剣道スポーツ少年団の指導、大月エコの里での活動にいそしむ。休日には桂川沿いを季節の移ろいを感じながら、ジョギングで汗を流しストレスを解消。山あり川ありの自然豊かな大月が大好き。

今日はおもに、エコの里での活動を中心にお話したい。NPO法人おおつきエコビレッジは平成17年3月に設立し、7年目を迎える。その設立の経過と6年間の活動内容そして、大月における将来の農業と観光の可能性について提言してみたい。

